

**製品名:** ヒストン脱アセチル化酵素 10 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab12047

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	75kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HDAC10
別名	HDAC10; Histone deacetylase 10; HD10
遺伝子 ID	83933.0
SwissProt ID	Q969S8
免疫原	抗血清はヒト HDAC10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

**背景**

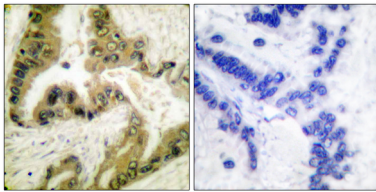
この遺伝子によってコードされるタンパク質はヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属し、このファミリーのメンバーはコアヒストンの N 末端部分のリジン残基を脱アセチル化します。ヒストンの脱アセチル化はクロマチン構造を調節し、転写調節、細胞周期の

進行、および発生イベントにおいて重要な役割を果たします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011 年 8 月],触媒活性:ヒストンの N(6)-アセチルリジン残基を加水分解して、脱アセチル化ヒストンを生成します。機能:コアヒストン (H2A、H2B、H3、および H4) の N 末端部分のリジン残基の脱アセチル化を担います。ヒストンの脱アセチル化は、エピジェネティック抑制のタグを与え、転写調節、細胞周期の進行、および発生イベントにおいて重要な役割を果たします。ヒストン脱アセチル化酵素は、巨大な多タンパク質複合体の形成を介して作用する。類似性: ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属する。タイプ 2 サブファミリー。細胞内局在: 核小体から除外される。サブユニット: HDAC2、HDAC3、NCOR2 と相互作用する。組織特異性: 普遍的。肝臓、脾臓、膵臓、腎臓で高発現する。、

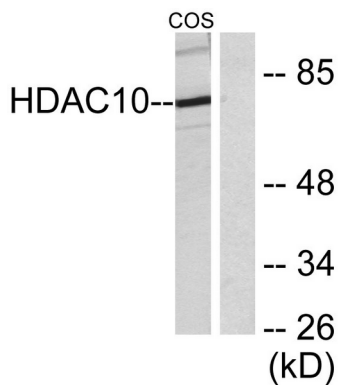
## 研究分野

タンパク質アセチル化

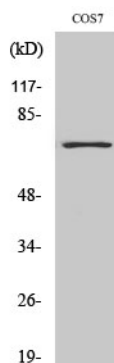
## 画像データ



HDAC10 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



COS7 細胞ライセートの HDAC10 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ヒストン脱アセチル化酵素 10 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析